

着任のご挨拶



神経内科医長 森永章義

平成26年4月1日より神経内科医長兼リハビリテーション科医長として勤務させていただいております森永章義と申します。

神経内科では脳梗塞のような脳血管障害、パーキンソン病・進行性核上性麻痺・筋萎縮性側索硬化症などの神経難病に加えて、アルツハイマー病に代表されるような認知症の診断・加療もしています。私も神経内科専門医・指導医であると同時に認知症専門医・指導医でもあります。

認知症とは「脳の細胞の働きがわるくなったためにさまざまな障害がおこり、日常生活に支障をきたした状態」を指し、その代表的な症状が『もの忘れ』です。認知症の診断ではまず、『もの忘れ』などが加齢などによる『正常なもの忘れ』なのか、『病的なもの忘れ』なのかをまず判断します。そのうえで、『病的なもの忘れ』の場合は十分な問診と必要な検査をし、原因を特定していきます。認知症の原因疾患にはアルツハイマー病に代表されるような根治できないもの以外に正常圧水頭症や甲状腺機能低下症などのように根本的治療が可能かもしれないものも含まれています。

2010年の厚生労働省の調査では65歳以上の日本人の約460万人が認知症を発症しており、その予備軍(軽いもの忘れがある方)がさらに400万人いるとされています。つまり65歳以上の4人に1人が認知症およびその予備軍ということになります。頼まれたことを忘れてしまう、約束を忘れる、物をすぐなくしてしまう、同じものばかり買ってくる、食事の内容が毎日同じになった、服装などに無頓着になった、薬が大量に余るようになった、病院に行く日を間違えるようになったなど以前と様子が変わったことはありませんか。これらは『病的なもの忘れ』の可能性ががあります。そのような場合にはお近くの神経内科へ相談してみたらよいかもしれません。

